

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191600081		
法人名	医療法人社団 栄寿会		
事業所名	グループホーム 栄寿荘		
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田280-1		
自己評価作成日	令和 7年 2月 25日	評価結果市町村受理日	令和7年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和7年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念として明るいホームを目指しています。その為には開放的な環境であることが重要と考え、家族の面会外出をはじめ、ボランティアの受け入れ、地域行事への参加、そして職員教育では外部研修に参加するなど積極的に行うようにしている。外に目を向けていくことで様々な声を聞くことができ、自分たちのケアや業務を振り返る姿勢を持つことで、利用者様により良い生活環境や支援を提供していくことが出来ると考えている。また地域密着型施設として認知症の正しい理解の啓発に努めるためにも地域の方々との交流を大切に考えています。

同敷地内に協力医療機関及び訪問看護、居宅介護支援事業所が併設されている。コロナ禍では、地域行事への参加が難しかったが、感染対策を行いながら、今年より少しずつ地域との交流を再開しつつある。協力医療機関からの看護師の異動に加え、喀痰吸引研修を受講する職員もあり、住み慣れたホームで長く生活できるような体制づくりもなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
		I ユニット	II ユニット			I ユニット	II ユニット
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価(Ⅰユニット)	自己評価(Ⅱユニット)	外部評価		
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の共有は出来ており、地域密着型として地域の方々との交流を大切にしているがコロナ過以降思うように出来ていない。	「私達は良き出会いに感謝し互いに尊敬しあい明るいホームを目指します」を理念とし、互いに尊敬し合える関係作りに力を入れています。	理念は事務所や玄関など各所に掲示されている。職員それぞれが理念の理解を示しているが、共有し、振り返るまでには至っていない。	振り返る機会を持ち、理念の共有をし、実践につなげていけるよう取り組むことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過以降なかなか思うように出来ていないが、すぐに再開できるような情報共有を行っている。	現在、夏祭りのような大きな行事への参加は難しいが、おくんちなどでは太鼓など叩きにきて頂き利用者様は喜ばれていました。	介護相談員の受入れや感染対策を行いながら、コロナ禍以前のようにボランティアの受け入れができるよう情報の共有をしている。今後も運営推進会議などで地域貢献できることを聞いていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方への接し方、考え方などの理解を深めて頂くよう努めている。	運営推進会議を通して認知症の方への接し方、考え方などの理解を深めて頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月の入居者状況、行事報告、施設内の情報などを報告しながら情報交換を行い認知症への理解を深めサービス向上に努めている。	運営推進会議では毎月の入居者状況、行事報告、施設内の情報などを報告しながら情報交換を行い認知症への理解を深めサービス向上に努めている。	会議は活発な意見交換ができています。また、民生委員の会議の後の日程で運営推進会議が開催されているため、地域の情報共有の場にもなっている。しかし、入居者家族の参加ができていない。	入居者家族も参加しやすい会議の場をもてるような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点や意見交換などを行いながらサービス向上に努めている。	運営推進会議に役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点や意見交換などを行いながらサービス向上に努めている。	町担当者とは、相談しやすい関係性が築けている。また、グループホームに向けての研修開催の情報提供も定期的に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会や外部研修に参加し理解を深め、身体拘束以外の方法で解決策がないか職員全員で考えている。	身体拘束に関する勉強会や外部研修に参加し理解を深め、身体拘束以外の方法で解決策がないか職員全員で考えている。	職員は、研修を通じて身体拘束への理解を深め、身体拘束にいたらないよう工夫をし、日々のケアに努めている。ただし、日中の職員が少ない時間帯のみ、玄関の施錠を行っている。	施錠に頼らないケアの実践について、引き続き検討されることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会や研修に参加し知識を深めたうえで業務に取り組み、虐待に繋がりそうなケアを発見したら職員全員で話し合う機会を設けている。	ミーティングや勉強会、研修等で常に人権意識を念頭に置き認知症高齢者の虐待防止について話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰユニット)	自己評価(Ⅱユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修会等に参加し、知識を深め利用者様、ご家族様、地域の方の助言を頂き、必要であれば関係機関へ迅速な対応ができるよう支援を行っている。	権利擁護について研修会等に参加し、知識を深め利用者様、ご家族様、地域の方の助言を頂き、必要であれば関係機関へ迅速な対応ができるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には可能な限りご本人様、ご家族様で施設見学をして頂き、グループホームの雰囲気、特徴等をお伝えし納得の上で契約させて頂いている。	契約前には可能な限りご本人様、ご家族様で施設見学をして頂き、グループホームの雰囲気、特徴等をお伝えし納得の上で契約させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様がいつでも意見や要望を伝えられるよう玄関に意見箱を設置し、職員はその内容を理解したうえでケアに活かすように努めている。	利用者様、ご家族様より遠慮なく意見や要望を出して頂けるよう、施設の雰囲気作りや職員との関係作りに努めている。	SNSなどを活用し、ホームでの様子を報告したり、写真を送ったりしている。日々の小さな事も家族と共有することで、意見や要望が出やすい環境作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは管理者から全体会議の報告を行うことで情報共有を図り、職員が自由に意見を出せるような雰囲気作りを心掛けている。	スタッフミーティングでは全体会議での情報を管理者から報告することで情報の共有を図っている。職員も自由に提案し意見を出せるような機会を設け反映出来ている。	協議が必要な事柄は、適宜会議の場を設け、意見が出やすい、話しやすい雰囲気づくりを行っている。また、会議で検討された内容は、必要に応じてホームの運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、働きやすい環境を整えている。資格取得等のサポートをすることで向上心を持って働けるよう努めている。	職員個々の勤務状況や実績を把握し、資格取得や研修会への参加を奨励し、職場環境の向上やサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が毎月の勉強会や外部の研修に参加することで資質の向上に努めている。	職員が外部の研修に参加後、その内容を施設内で共有し、育成や資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や勉強会で他施設の方と交流する機会を設け、交流内容から質の向上へ繋げる努力をしている。	職員が研修会などに参加することで、他施設との交流を図る機会を作り、同業者との情報交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価（Ⅰユニット）	自己評価（Ⅱユニット）	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様とともに施設内を見学して頂きサービスの利用を開始する段階で不安な事や要望に耳を傾け本人様が安心して生活を送れるよう努めている。	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、直接施設の印象や要望、困りごとなどをお聞きする機会を設けている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様と共に施設内を見学して頂きサービスの利用を開始する段階で不安な事や要望に耳を傾け家族様との信頼関係も築くよう努めている。	ご本人様と施設内を見学して頂き、不安な事や困りごとなどお聞きする機会を設け信頼関係を築くよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の段階から施設内ケアマネージャーも同席し、本人様や家族様の抱えられている問題について十分な聞き取りを行いケアに努めている。	初期相談の段階から施設内ケアマネージャーも同席し、本人様や家族様の抱えられている問題について十分な聞き取りを行いケアに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は家族様や知人の方との交流を十分に図れず多くの不安を抱えていらっしゃいます。少しでも不安を軽減できるよう日々のコミュニケーションを大切にしている。	施設内で利用者様と共に生活を営む中でたくさんの気づきや学びを得る機会が多いと感じている。利用者様との信頼関係を築けるよう頑張りたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とのコミュニケーションを大切にしており率直な意見を頂けるような関係作りに努めている。	ご家族様とラインワークスで繋がっており、気軽なメッセージのやり取りや何気ない表情の写真を送ったりして信頼関係に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加、慰問、面会など、これまではコロナ過で思うように出来なかったが5類になり徐々にではあるが地域行事への参加も増えてきた。	徐々にではあるが、地域の方々との交流も増えてきているので、関係継続に努めていきたい。	入居者の要望があれば、当日でも対応している。感染症予防のため、人が多く集まる場所は控えてもらっているが、住んでいた家や公園を訪れるなど、馴染みの方との交流が継続できるよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や生活のペースなど把握し、その方に合わせた生活のお手伝いが出来るよう心掛けている。	普段過ごされる場所や食席の配置にも気を配り、利用者様同士が出来るだけ快適に過ごせるよう心掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰユニット)	自己評価(Ⅱユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ面会制限等もあり思うようにはできないが、退居後も様子伺いをさせて頂くなど関係性の継続に努めている。	入院や他施設へ行かれた利用者様でも、いつでもサポート出来るよう関係維持に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジャーと担当職員が連携し利用者様の思いや意向を出来る限り汲み取れるよう努めている。	日常の会話や訴えから、本人様の思いを汲み取り、ケアプランに反映させている。	入居者に応じて、日常生活での様々な場面で意向の把握に努めている。発語が難しい方は、家族から話を聞いたり、表情や仕草から意向を読み取り、職員間でも共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様より聞き取りを行い、本人様が馴染みのある家具や道具などを居室へ置いて頂き、落ち着いて過ごして頂ける環境作りを心掛けています。	何気ない日常会話中でも過去の生活やご家族様のお話し、地域の事など話された際は支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサインや表情、行動等から不調の早期発見が出来るように日々の観察、ケアに努めている。	バイタルサインや表情、行動等から不調の早期発見が出来るように日々の観察、ケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にはご家族様、ケアマネジャー、担当看護師、担当介護士が出席し多方面から情報を出し合うことで、利用者様にあったより良い介護計画を作成できるよう努めている。	ケア会議にはご家族様、ケアマネジャー、担当看護師、担当介護士が出席し多方面から情報を出し合うことで、利用者様にあったより良い介護計画を作成できるよう努めている。	毎月評価を実施し、半年ごとに介護計画の見直しを行っている。主治医には、訪問診療時や照会依頼書にて医療面での情報共有を行い、介護計画書に反映させている。また、家族には、対面やオンラインを活用し、会議に参加していただき、介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録にて、現状の把握を行っている。また変化等ある際は詳細に伝えるよう心掛けている。	ケア記録はタブレット入力しパソコンを使って時系列で見たり、特定の事を抽出するなどして情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズを第一に考え、柔軟に対応出来るよう心掛けている。	利用者様のニーズを第一に考え、柔軟に対応出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰユニット)	自己評価(Ⅱユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流は徐々に増えてきているのでこのまま継続して行きたい。	地域の方々との交流は徐々に増えてきているのでこのまま継続して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の希望を尊重し、かかりつけ医が他病院にいらっしゃる利用者様もいます。受診の際は一週間分のバイタル、食事、水分、排泄などの情報をお渡しし情報共有を図っています。	利用者様の希望を尊重し、かかりつけ医が他病院にいらっしゃる利用者様もいます。受診の際は一週間分のバイタル、食事、水分、排泄などの情報をお渡しし情報共有を図っています。	入居者・家族の希望に応じて、これまでのかかりつけ医を継続できる。通院は家族の協力を得ているが、必要に応じ、職員が対応し、適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。また、緊急時も、速やかに対応できるよう各入居者のかかりつけ医の一覧表を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が3名おり、常に情報共有を行い迅速に対応できるように努めています。必要場合は看護師から主治医へ状態報告し往診もしくは指示を仰いでいます。	常勤看護師が3名おり、常に情報共有を行い迅速に対応できるように努めています。必要場合は看護師から主治医へ状態報告し往診もしくは指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、その医療機関やご家族様とこまめに連絡を取り合い情報共有に努め、利用者が安心して治療できるよう努めています。	利用者が入院された際は、その医療機関やご家族様とこまめに連絡を取り合い情報共有に努め、利用者が安心して治療できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明や急変時の対応等の話をしている。又、状態の変化に応じてその都度ご家族様と相談を行い、グループホームでできる事を説明しながら方針を共有できるように取り組んでいる。	契約時に看取りに関する説明や急変時の対応等の話をしている。又、状態の変化に応じてその都度ご家族様と相談を行い、グループホームでできる事を説明しながら方針を共有できるように取り組んでいる。	本人や家族の意向を適宜確認し、主治医を交えて看取り期の対応に関する情報共有を行っている。夜間帯でも対応できるように、ホーム内での体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急蘇生の研修に参加しています。常勤の看護師が必ず居るので看護師や医師と連携をとりながら適切な対応が出来るように努めています。	定期的に救急蘇生の研修に参加しています。常勤の看護師が必ず居るので看護師や医師と連携をとりながら適切な対応が出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の職員を中心に防災訓練を年2回実施している。通報訓練、避難訓練、消化訓練を行っている。防災無線も設置しています。	防火管理者の職員を中心に防災訓練を年2回実施している。通報訓練、避難訓練、消化訓練を行っている。防災無線も設置しています。	消防署や防災機器の業者も参加し、夜間想定で年2回の防災訓練を行っている。また、備蓄や懐中電灯などの準備をしている。避難訓練の実施に関しては、近隣住民へ周知はしているが、参加に至っていない	運営推進会議を活用し、災害時の地域と関わりを持ち、訓練に参加していただけるような工夫に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価(Ⅰユニット)	自己評価(Ⅱユニット)	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の体調面や心理状態の把握に努め、プライバシーの保護に配慮しながら、人格尊重を重視した言葉掛けや行動が出来るように努めている。	利用者様の体調面や心理状態の把握に努め、プライバシーの保護に配慮しながら、人格尊重を重視した言葉掛けや行動が出来るように努めている。	トイレは扉を閉めたり、居室はノックして入室するなど、プライバシーに配慮している。同性介助も希望があれば対応している。一人ひとりの人格の尊重した言葉遣いや、行動などに注意を払っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中からそれぞれの思いやニーズを把握できるように努めている。	利用者様、個々の思いやニーズを把握できるようコミュニケーションをとり理解するように努めている。認知症の症状により思いを言葉にできない方等は表情や動作から思いを汲み取るように努めています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者様のニーズに沿うケアを心掛けているが、業務優先になったりする事もあるので注意し利用者様の希望にできるだけ応えられるように努めていきたい。	出来る限り利用者様のペースに合わせた支援を心掛けて行きたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へはご本人様やご家族様の要望を第一に好みの店舗へ予約の手配を行っていましたが、現在は地元の美容室に訪問を依頼し来て頂いている。	美容室へはご本人様やご家族様の要望を第一に好みの店舗へ予約の手配を行っていましたが、現在は地元の美容室に訪問を依頼し来て頂いている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、午後のおやつを利用者様と一緒に作っています。ご自身で作ったものを食べられる際は笑顔が多いように思います。	食事は外注している為、利用者様には机拭きや配膳などできる事を手伝って頂いている。	食事は厨房で調理されている。入居者の好みを聞き、近隣の商店から配達をしてもらい、提供するなども対応している。天気のいい日は、屋外のベンチで食べるなども楽しんでいただいている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事の形態や量で提供している。水分量が少ない利用者様には好みの飲み物を提供したり、水分でのムセが多い方には、とろみを使用したり工夫をしています	個々に応じた食事の形態や量で提供している。水分量が少ない利用者様には好みの飲み物を提供したり、水分でのムセが多い方には、とろみを使用したり工夫をしています	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立されている方には声掛けし口腔ケアをして頂いている。介助の方は状態に応じてスポンジブラシ、口腔ケアシートなど使用。夜間は義歯の浸け置きを行っている。	かかりつけの歯科の先生と情報共有しながら口腔内の清潔保持に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰユニット)	自己評価(Ⅱユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、早めの声かけトイレ誘導にて、失禁の軽減に努めています。	自発的にトイレに行かれない利用者様には、声掛けや誘導トイレを促している。排泄の失敗による不安や羞恥心を最小限に抑えられる支援を心掛けて行きたいと思います	一人ひとりのできる範囲で、ズボンの上げ下ろしやパットの交換などしていただき、排泄の自立を促している。オムツを使用されている方は、定時や適宜オムツ交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性の方には緩下剤を服用して頂いている。水分の声かけや体を動かして頂く様促しています。	慢性の方には緩下剤を服用して頂いている。水分の声かけや体を動かして頂く様促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	室温に注意したり、入浴剤を使用し入浴しやすい環境づくりに努めています。	バイタルサインに異常が出たり、その日強く拒否される利用者様は入浴を見送ったりしています。	午前中を基本とし、入浴支援を行っている。自立されている方は、見守りし、入浴が難しい方は、清拭を行っている。また、同性介助の希望があれば対応している。今後は、重度の方も安全に入浴できるように、ストレッチャー式の機械浴を設置予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特にきまっておらず自由に休んで頂いている。テレビやラジオを聞いたり、好きな音楽を聴いて頂いたり、できるだけリラックスした状態で休んで頂けるよう心掛けている。	本人様のペースに合わせてお昼寝や就寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現病歴と薬剤の理解に努めています。利用者様に応じて、手の平や口中介助を行っています。	時々、薬が床に落ちている時がある。薬はとても大事なもので、しっかり服用して頂けるよう職員全員で情報共有し服薬ミスが起きないように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の居室や廊下のモップ掛け、洗濯物干し、たたみ、新聞折など自主的に手伝いをして頂いている。天気の良い日にはドライブや月ごとの誕生会、行事など楽しんで頂いています。	毎朝の居室や廊下のモップ掛け、洗濯物干し、たたみ、新聞折など自主的に手伝いをして頂いている。天気の良い日にはドライブや月ごとの誕生会、行事など楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブや、ご家族様に協力して頂き外出や外食を楽しんで頂いています。現在外出に関しては時間の制限なし。外泊は不可。	天気の良い日にはドライブや、ご家族様に協力して頂き外出や外食を楽しんで頂いています。現在外出に関しては時間の制限なし。外泊は不可。	季節の花々を見に行ったり、墓参り、冠婚葬祭などの外出支援も必要に応じて職員で対応することがある。外出が難しい方は、敷地内での外気浴をするなど、楽しんでいただけるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰユニット)	自己評価(Ⅱユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自身で管理されている利用者様はいらっしゃるが、使う機会が少ないので今後使う機会を増やして行きたいです。	お金をご自身で管理されている利用者様はいらっしゃるが、使う機会が少ないので今後使う機会を増やして行きたいです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎月の個人だよりを本人様に書いて頂いたり、電話を希望される時は公衆電話から自由に掛けて頂いている。	毎月の個人だよりを本人様に書いて頂いたり、電話を希望される時は公衆電話から自由に掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに貼り絵やポスターを貼り替えたり、花を生けたり季節感を取り入れるようにしています。安全な動線の確保やテーブル、ソファの配置など工夫をしています。	季節ごとに貼り絵やポスターを貼り替えたり、花を生けたり季節感を取り入れるようにしています。安全な動線の確保やテーブル、ソファの配置など工夫をしています。	ホーム内でも季節を感じるができるよう、入居者が作成した作品などが飾られている。職員が研修で学んだ認知症の方への理解を共有し、生活音などにも配慮し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファで仲の良い利用者様同士で過ごされたり、時には一人で居室でテレビを見たり昼寝をされたりレク活動をされたり思い思いに過ごされている。	食席やソファで仲の良い利用者様同士で過ごされたり、時には一人で居室でテレビを見たり昼寝をされたりレク活動をされたり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、馴染みのある家具や品物、またご家族様の写真等を持参して頂き、安心できる居室作りに努めています。	入居の際、馴染みのある家具や品物、またご家族様の写真等を持参して頂き、安心できる居室作りに努めています。	使い慣れたものを持ち込むことができる。家具の配置などは身体状況や好みに応じて対応している。家族との面会時の写真を飾り、家族との繋がりに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはトイレと洗面台が設置されプライベートな部分が守られています。居室を分かり易くするよう	各居室にはトイレと洗面台が設置されプライベートな部分が守られています。居室を分かり易くするよう		